

沖縄カトリック中学高等学校 学校通信 <h1 style="text-align: center;">野ばら</h1> 2月号	発行 沖縄カトリック中学高等学校 〒901-2215 宜野湾市真栄原3-16-1 TEL 098-897-3300 http://www.catholic-okinawa.ed.jp/ 2012年1月31日(火)
--	---



神様からの預かり物

校長 夏見 隆晴

今年も、はや一ヶ月が過ぎてしまいました。日本の学校制度では、一月二月という時期は、生徒にとっても教師にとっても慌ただしく、そして心忙しい時期であります。それは四月から始まる新学年が、どのようなものになるかという不安が、どうしても日々の生活にのしかかってくることにあります。

普段はのんびりしているように見える低学年の生徒も、この時期になると多少は慌てたします。進級を逃しでもすれば恰好がつかないという気持ちが、きっと誰の心の中にも湧き出てくるのでしょう。そして四月になり一つ学年が上がれば、確実にお兄さんお姉さんに成っているのですから、人の成長というものは面白いものです。

さらに上級学校への進学ともなれば、人は古い上着を脱ぎ捨てて新しい服を身につけるのですから、その変りようはもっと顕著なものとなるのは当然のことです。今の時期、高校三年生は自分を受け入れてくれる学校を求めて、日々努力を重ねております。自分になりたい自分になるための努力ですから、多少厳しくても最後まで頑張りたいと願っております。

中学生であっても、高校生であっても、そして大学生になっても、学ぶということが自分の仕事であるということを、肝に銘じておいて欲しいと願っております。そして仕事には、熱心にまた真面目に取り組むことが必要です。わたしたちはみな、神様からの預かり物としてそれぞれの才能をいただいております。いただいた才能を生かして使うという行為こそが、よく生きるということであると心に留めておいて欲しいのです。

ところで神様からの預かり物と言えば、現在この学校に在学している生徒のみなさんこそ、正真正銘の神様からお預かりした尊い宝であると考えています。この宝を土の中に埋もれさせたままにしておくわけにはまいりません。だからこそ先生方は、時には厳しい態度で接するようになるのです。聖書の教えにあるように、預かり物は倍にしてお返ししなければならぬのです。

四月新年度を始めるにあたって、わたしたちの働きを認めていただいて、一人でも多くの生徒さんを預けていただくことができると切に願っております。もちろん、わたしたちにももっともっと頑張らなければならないことも多々あります。けれどもわたしたち

は、希望を持って主イエス・キリストを信頼し、学園の発展に寄与できればと願っております。どうか保護者の皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

「備える」大切さ

保健体育科 田福 克裕

先日、1月17日。教員のミーティングの場で、夏見校長から「阪神淡路大震災から17年です。今日みたいな日を機会に、いろんなことに備える大切さを生徒へ伝えてください」というお言葉がありました。災害などに対してだけではなく、日頃の健康への留意、毎日コツコツと継続し真の実力をつけるための学習習慣など。私は広い意味で生きていくために「備える」ということをお話しになっているように感じながら聞いていました。

震災当時、私は夏見先生が昨年度まで理事長・校長を務められていた啓光学園中学高等学校(現常翔啓光学園)に勤めており、北大阪の公団住宅(浦添の動物団地のような5階建)の4階に住んでいました。数十秒だったのですが、数分を感じる縦揺れ、収まったと思ったら余震の連続。冷蔵庫、高さ2メートルの食器棚などが50センチ前方へずれており、テレビでは前の週に通った阪神高速道路の倒壊。ヘリコプターからの火災の映像。団地の駐車場は何十台の車が均等に約1mずれていました。学校へ行くと職員室は海賊が暴れたあとのように足の踏み場がなくパソコン、プリンターや書類やなどが散乱。体育館はガラスが割れ、50m×8コースの大きなプールの床がひび割れするなど悲惨な状況でした。

また知り合い同士の安否確認の連絡の中で、神戸市東灘区に住んでいた私の地元の少年野球時代からの先輩どうしても電話がつかずありませんでした。2日後やっと携帯電話で連絡がつかしました。聞くともマンション13階のリビングルームのベランダ側のガラスが全部割れ、玄関横の6畳部屋での生活。水道、ガスは止まり、非常袋や非常食などの準備もしておらず、食べるものも無くなってきたと伝えられました。早速、缶詰、カセットコンロ、インスタントのご飯、ラーメン、水、飴玉、クッキー、チョコレート、またリクエストがあった水の要らないシャンプーやタオルなどリックサックに入れ、背中とお腹にかけ、原付スクーターの足元に載せられる大きさのスポーツバックに入るだけ詰め込み、届けに行きました。神戸市内に近づくほどに倒壊した家屋が増え、コンクリートの道路がひび割れ、20センチの段差、その都度バイクをおりて、前輪、後輪と持ち上げ走りました。先輩宅に着きカセットコンロでお湯を沸かしカップ麺を食べながら「暖かいものを食べるのは3日ぶりだ」と話していたことが思い出されます。

本校の保健体育の授業では中高ともに応急手当の意義・手順の講義を行っています。実技として、今年度より中1、高1の2学年で宜野湾消防の普通救命講習を授業の中で実施致しました。普通救命講習は180分間の講習が決っており、他教科の先生方をお願いをして、3校時連続に時間割変更をしていただきました。そして受講生徒全員に普通救命講座修了証が交付されました。

中学校では沖縄スイミングスクール浦添校のご厚意で正規の5日間の水泳授業の後、6日目に水の事故に対する安全指導・救命訓練を無料で行って頂いております。内容はシャツ、靴下をつけて入水し、衣服着用のまま転落などしたときに、いかに泳ぎに支障があるかの体験。また特別な機械を使って波を立てて頂き、波に向って泳ぎや波に流されるなどの実習。自分のシャツを使ってお腹に空気を取り込み、身体を浮かせる方法。溺れている人を陸からペットボトルや棒切れなどでの救助方法における注意点など。1年生から3年計画で行って頂いております。

また通常の体育授業の持久走を走る前、終わった後の脈拍の測定。これも、万が一の救命を想定して

人の脈を測定する。脈の分かりやすい人。またその逆の人もありますので、毎回出来るだけ、違う友達の脈を取るように指導しております。

生徒には「君たちが生きていく中で災害などに遭遇しないことが一番だ。しかしその保障はない。またいつ何処で事故などに遭遇し自分一人で怪我人に対応せざるえない状況になるかもしれない。その時、助けていけれどもやり方が分からない、習ったけれどもうろ覚え。君たちの対応で痛みの軽減や怪我の回復が軽くなったり、場合によっては生命をも助ける可能性もある」と話しています。

人の役に立つ行動。本校の教育理念、建学の精神に繋がるところだと思えます。人の役に立てるという事は、自分のことがきちんと出来るという事。つまり自分の行いに責任を持つことが出来なければ、人のことの手助けなど出来ないということ。「備える」ことは「自分の責任を持って生きる」ということなのです。生徒たちに物事を主体的にとらえ、今出来ることを自ら積極的に行う姿勢。それが「備える」事だということを伝えていきたいと思えます。

お知らせ

・ 中学二次募集について

中学校の二次募集を下記の通り実施いたします。広くご紹介いただければ幸いです。

1. 試験日 2012年2月4日(土)

2. 出願期間

2012年1月27日(金)～2月3日(金)

受付時間 午前8時～午後5時 *但し、土曜日は正午までです。

*HPから要項がダウンロードできます。



・平成23年度沖縄県高等学校空手道春季大会
準優勝 男子個人形 高2A棚原武蔵

・第50回全沖縄児童生徒書初め展(琉球新報社主催)
銅賞 中2A宮城亜凜
高2A宮城亜結
高2A吉元愛紀子

・第34回沖縄青少年科学作品展
環境奨励賞 中2A桂美貴

2月の予定

1日(水)	職員会議(16:20下校)
4日(土)	中1・中2一学力推移調査 中3一総合 高1一全統記述模試 高2一センター早期対策模試 中学二次募集
6日(月)～ 10日(金)	授業参観(詳しくは通知文にてご確認ください)
8日(水)	小中交流会(小5と高1) 委員会
15日(水)	職員会議(16:20下校)
18日(土)	家庭学習日
20日(月)～ 23日(木)	後期期末試験
24日(金)	中1～高2一答案返却 高3一午前中登校(8:10)
25日(土)	総合
29日(水)	卒業感謝ミサ 卒業式予行 総合一中1～高2(午後)

中1～高3(午前)